

第 59 期 事 業 報 告 書

2005.3.1 > 2006.2.28



代表取締役会長
廣内 武



代表取締役社長
上村 茂

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また平素より格別のご支援をいただき、心から感謝を申し上げます。

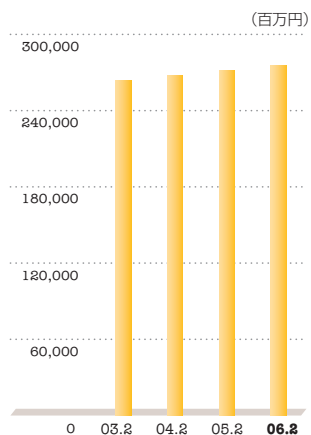
さて、当社は平成18年2月28日をもって、第59期の事業年度を終了いたしました。

第59期の経済環境は、企業収益が改善し、個人消費に明るさが見られるなど緩やかな景気回復が続きました。そのようななかで、当社グループは前期に引き続き着実に営業成績を伸ばすことができました。ここにご報告申し上げますとともに、今後とも「ブランド軸経営」による積極的な成長戦略を推進し、事業規模の拡大と経営基盤の強化を実現して、企業価値すなわち株主価値の向上をはかってまいります。

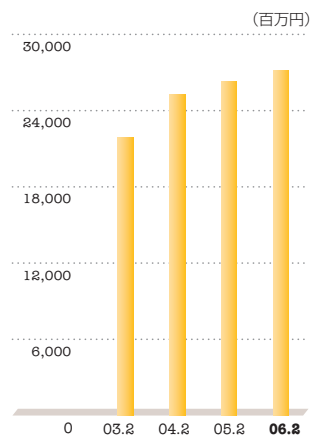
株主の皆様におかれましては、格別のご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

Financial Highlight

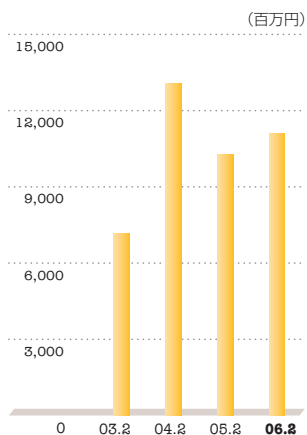
連結売上高



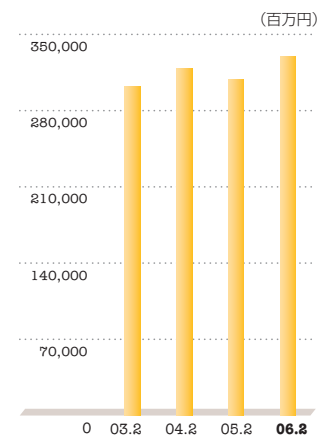
連結経常利益



連結当期純利益



連結総資産



(百万円)

	2003.2	2004.2	2005.2	2006.2
連結売上高	263,398	267,745	271,273	283,110
連結経常利益	21,897	25,243	26,283	27,167
連結当期純利益	7,157	13,053	10,256	11,091
連結総資産	302,187	318,270	308,170	329,403
連結純資産	190,754	196,796	202,376	203,826
連結 1 株当たり当期純利益 (円)	41.55	74.07	58.10	63.79

当期の事業環境と業績全般について

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業業績の好調が雇用や家計環境に波及し、個人消費に明るさが見られるなど、景気は緩やかな回復基調が続いております。当アパレル業界におきましても、春物衣料は低気温の影響で伸び悩んだものの、その後は個人消費の回復に加え、防寒効果で防寒衣料の需要が拡大するなど、衣料品市場は総じて堅調に推移いたしました。

このような経営環境のなか、当社グループは「ブランド軸経営」の徹底をはかるために、上期から消費者ニーズによりきめ細かく対応する「8シーズンMD（マーチャндаイジング）」を導入し、商品企画力の強化をはかりました。さらに下期では、店頭を起点にブランド価値を高める「ストアブランディング」の確立と「流通別ブランド戦略」に積極的に取り組んでまいりました。

その結果、百貨店流通では、「23区」「組曲」「自由区」「ICB」など大型基幹ブランドにおいて、先行企画精度の向上



「ICB」

による品番の絞り込みと、実需期に主力品番に集中した追加対応を実行した結果、大型ヒット商品が多数生まれるなど前年を上回る売上を達成することができました。さらに、「ポール・スミス」など基幹ブランドも順調に推移するとともに、当社として手薄であったヤングゾーンでも「プライドグライド」が高い支持を獲得し、基幹ブランドに成長したことなどで婦人服の売上拡大に寄与いたしました。また購買意欲の喚起策として、ゴールデンウィークに向けた「バカンス ユア スタイ



「組曲」



「ローズブリティ渋谷店」

REVIEW OF

ルキャンペーン」をはじめ、夏の「クールビズキャンペーン」、冬の実需期に向けた「オールブランドフェア」、「ウォームビズキャンペーン」を積極的に実施するなど、店頭販促活動も大きな成果につながりました。

紳士服につきましては、6月の「クールビズ」以降、11月の「ウォームビズ」、12月の厳冬による防寒衣料の急速な回復など好環境にも恵まれ、全般的に大幅な改善が進みました。



「ストラネス」

「ストラネス」は当初計画を上回る売上を達成いたしました。駅ビル・ファッションビルでは、セクシーカジュアルブランド「ローズブリット」を14店舗、セレクトショップ「クルーン・ア・ソング」を2店舗スタートさせるなど本格参入を果たし、今後、基幹ブランドに育成してまいります。

新流通につきましては、郊外型ならびに都市近郊型ショッピングセンターにおいて、下期から、ブランド名を刷新したカジュアルブランド「エニファム」「エニスイス」を主力に展開しました結果、「エニファム」は一部の既存店舗で苦戦したものの、「エニスイス」



「ジョゼフ」

昨年5月に買収した英国を代表するグローバルブランド「ジョゼフ」につきましては、最重点基幹ブランドと位置づけ、妥協のない商品・出店戦略を推進し、計画通り順調に推移いたしました。

以上、当社は主軸流通である百貨店と、新流通のいずれの販路においても、順調に業績を伸ばすことができました。

この結果、当期の連結業績は以下のとおりとなり、増収・増益の実績をあげることができました。

● 第59期（2006年2月期）の連結業績実績

売上高	2,831億10百万円（前期比4.4%増）
経常利益	271億67百万円（前期比3.4%増）
当期純利益	110億91百万円（前期比8.1%増）

今後の課題と来期の目標について

当社グループといたしましては、引き続き「ブランド軸経営」を積極的に推進し、「ストアブランディング」の確立と「8シーズンMD（マーチャндаイジング）」のさらなる精度の向上に取り組んでまいります。

主軸の百貨店流通におきましては、「23区」「組曲」「自由区」「ICB」など大型基幹ブランドのブランドエクイティの向上と販売機会ロスの削減をはかり、単店舗売上上の拡大をめざしてまいります。また今期、基幹ブランドの増収要因となった、品番の絞り込みと追加対応強化を他ブランドにも波及させ、既存ブランドの売上拡大と収益力の強化をはかってまいります。

世界のデザイナーとのコラボレーションによる新ブランド「ネイヴ」に関しましては、上期から婦人服を都市型有力百貨店21店舗でスタートさせるとともに、下期からは紳士服も加え、当社の基幹ブランドとして育成してまいります。

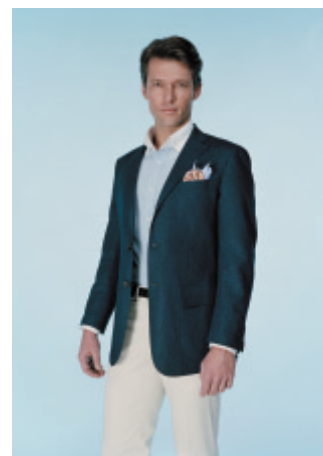
また、上質志向の新富裕層に向けた婦人プレタブランド「エスメ」を新たに開発し、下期から都市型百貨店のプレタゾーンに進出いたします。

紳士服については、盛夏対策として、当社独自の最新技術を駆使することで優れた通気性を実現させた「ギガクールスーツ」を開発し、「五大陸」「J. プレス」など主力ブランドで販売いたします。加えて「美軽ジャケット」「美背中シャツ」「美脚パンツ」のトータルスタイルで「スタイリッシュアップラインフォー クールビズ」として新たに展開し、百貨店クールビズ商戦における売上シェアの拡大をはかってまいります。

新流通につきましては、駅ビル・ファッションビルにおいて



「ファインホリデーズ キャンペーン」
・キャンペーン期間
2006年4月15日～2006年5月7日
・全国百貨店にて開催



「スタイリッシュアップライン フォー クールビズ」
・キャンペーン期間
2006年5月8日～2006年7月31日
・全国百貨店にて開催



「ネイヴ」

「ローズブリット」の都市型商業施設への出店強化をはかるとともに、セレクトショップ「クルーン・ア・ソング」の本格的な出店拡大を実施いたします。また、下期から都市近郊型ショッピングセンターに向けて高ファッション感度の婦人カジュアルブランド「メゾン・ダジュール」も新たに展開するなど、引き続き同流通のニーズに適した「流通別ブランド戦略」を強力に推進してさらなる成長をめざしてまいります。

「ジョゼフ」につきましては、青山に続いて今春、名古屋に大型複合路面店を出店するなど、有力商業地域への新規出店を加速させます。海外におきましては、当社グループのグローバルネットワークとの相乗効果を最大限に活用し、商品企画の充実と販売地域の拡大をめざしてまいります。

2007年2月期の連結業績の見通しにつきましては、以上の施策と、今後世界に向けた成長戦略の拠点として、さらに重要となる欧州・アジア・北米地区の子会社15社が新たに連結対象となることなどを勘案し、以下の見通しとしております。

●第60期（2007年2月期）の連結業績予想

売上高	3,100億円（前期比 9.5%増）
経常利益	284億円（前期比 4.5%増）
当期純利益	130億円（前期比 17.2%増）



「ジョゼフ ドライコットアベニュー」

「組曲」新イメージキャラクターに柴咲コウを起用



柴咲コウ（しばさきこう）
東京都出身。人気映画「着信アリ」「世界の中心で、愛をさけぶ」等に出演。現在TVドラマやCM、アーティストとして幅広い分野で活躍している。今後多数の映画出演が決定している。

当社は、20歳代前半の女性に向けたカジュアルブランド「組曲」の新しいイメージキャラクターに、ファッション広告では初めてとなる柴咲コウ（しばさきこう）さんを起用しました。

1992年にデビューした「組曲」は、いつまでも飽きのこないナチュラルでシンプルなデザインと上質感による商品提案で順調にブランド力をつけ、当社の主力ブランドとして、若い女性を中心に幅広い支持を得ています。当社では、「組曲」のさらなる成長に向けたブランド戦略の一環として、ファッション雑誌を中心に展開するとともに、ショップのカラーコルトン（電飾サインボード）やブランドカタログ、DM（ダイレクトメール）、Webサイトなど幅広いメディアで展開広告宣伝を一新させて話題性を喚起し、ブランドイメージの強化と新規顧客の獲得をめざします。

柴咲コウさんは、「着信アリ」「世界の中心で、愛をさけぶ」などの人気映画をはじめ、TVドラマ、CMなど幅広い分野で女優として活躍する一方、映画の主題歌を歌うなど、アーティストとしても活躍しています。その他人気ファッション雑誌に多く取り上げられファッションセンスの良さでも若い女性から高い支持を得ており、進化する定番をコンセプトとした「組曲」のブランドイメージに最もふさわしい女性であると考え起用しました。

コラボレーションブランド「ネイヴ」誕生

当社は、高感度な若い女性に向けて「SETTING THE RULES OF FASHION（ファッションの基準を創り変える）」をキーワードに、世界中の旬なデザイナー20名とのコラボレーションによって作られた、次世代型の戦略ブランド「ネイヴ」を、2006年春から日本国内の百貨店21店舗と米国において同時展開いたしました。

「ネイヴ」は、単品を買い付けて編集する小売発想のセレクトショップの概念を逆転させ、世界中の旬なデザイナーが、それぞれ最も強みとするアイテムを「ネイヴ」のためにデザインし、編集するメーカー発想から生まれたセレクトショップを進化させた新しいコラボレーションブランドです。

当社プロデュースのもと（1）日本企画商品（2）Richard Chai（リチャード・チャイ）氏による米国企画商品（3）コラボレーションデザイナーによる企画商品の3つのカテゴリーの“価値ある単品”を集積したフルアイテムを展開し、秋にはメンズラインも展開いたします。



ネイヴNYソーホー店
米国ニューヨークマーサーストリート159番地にオープンした「ネイヴNYソーホー店」は1フロアの路面店で、店舗面積は167㎡。店舗デザインには有カインテリアデザイナーの高津卓也氏を起用し、「江戸切り子」のモチーフを内装の壁に採用するなど日本の芸術文化の繊細さをダイナミックに表現しています。

「ギガクールスーツ」



「COOLBIZ (クールビズ)」ビジネススタイル 2006 を展開

当社は、メンズ主カブランドにおいて「クールビズ」に対応した商品企画を強化し、「スタイリッシュアップライン」と新開発の「ギガクールスーツ」を展開します。

「スタイリッシュアップライン」では、超軽量・超立体の「スタイリッシュアップライトジャケット (美軽ジャケット)」、ジャケットを脱いだときのフォルムの美しさがポイントの「スタイリッシュアップシャツ (美背中シャツ)」、 「スタイリッシュアップパンツ (美脚パンツ)」を主軸アイテムとし、トータルでスタイリング提案していきます。

「ギガクールスーツ」は、スタイリッシュでありながら、高温多湿な日本の夏を乗り切るための当社独自の通気性を高めた最新機能が搭載されたスーツで、実需期における話題性の喚起と売上拡大をめざします。

当社では、クールビズスタイルの専用ホームページ (当社ホームページ内) の開設、クールビズのコーディネートポイントを解説したスタイリングマニュアルの発行、百貨店メンズフロアでのクールビズファッショントークショー、一般企業などに向けたクールビズファッション講座などの販売促進活動を積極的に行っています。

クールビズサイト…………… <http://www.onward.co.jp/coolbiz/>

女子プロゴルファー大山志保と所属契約

当社は、2005年賞金ランキング第3位的女子プロゴルファー大山志保 (おおやまほ) 選手と所属契約を締結いたしました。

当社は、「ファッション」を生活文化としてあらゆる場面に提案し、新しいライフスタイルや価値の創造を通じて、人々の豊かな生活づくりへの貢献をめざしております。スポーツにおいても、企業活動の一環として、ゴルフやアメリカンフットボール、スピードスケートなどで、団体や個人選手に対する支援活動に取り組んできました。なかでもゴルフは、1979年以来27年間にわたって様々なゴルフウェアブランドを提案し、複数のツアープロへの支援やプロゴルフトーナメントへの協賛などを積極的に行っています。



大山志保 (おおやまほ)

2000年にプロテストに合格。2005年マンシングウェアレディーズ東海クラシック優勝、最終戦のLPGAツアーチャンピオンシップ・リコーカップでメジャー初勝利を飾るなど年間賞金ランキング第3位に入る好成績を取めました。トッププロとしてさらなる活躍が期待されています。

今後、大山プロとの所属契約にともない、「23区スポーツ」の商品開発にトッププロの経験を活かしたアドバイスを反映させ、ファッション性と機能性を兼ね備えたゴルフウェアのさらなる追求や、「23区スポーツ」と大山プロとのコラボレーションによるオリジナル商品の展開をしてまいります。

Financial Statements
Consolidated

連結財務諸表

連結貸借対照表

(百万円)

	当期 2006.2	前期 2005.2
資産の部	(329,403)	(308,170)
流動資産	135,769	150,968
現金及び預金	56,136	81,821
受取手形及び売掛金	27,675	26,083
たな卸資産	31,116	27,410
繰延税金資産	4,175	4,227
その他の流動資産	16,891	11,732
貸倒引当金	△ 226	△ 307
固定資産	193,634	157,201
有形固定資産	99,687	96,394
建物及び構築物	33,083	31,511
土地	57,190	57,137
その他の有形固定資産	9,413	7,745
無形固定資産	26,767	2,382
連結調整勘定	24,158	—
その他の無形固定資産	2,609	2,382
投資その他の資産	67,178	58,425
投資有価証券	37,430	17,888
長期貸付金	2,884	3,089
長期前払費用	5,767	6,784
繰延税金資産	2,215	5,743
再評価に係る繰延税金資産	1,629	1,612
その他の投資	17,634	23,595
貸倒引当金	△ 384	△ 288
資産合計	329,403	308,170

(百万円)

	当期 2006.2	前期 2005.2
負債の部	(107,803)	(88,915)
流動負債	97,617	79,025
支払手形及び買掛金	46,926	45,657
短期借入金	26,419	15,771
未払法人税等	8,437	1,406
未払消費税等	1,255	1,308
未払費用	7,116	6,709
賞与引当金	2,971	2,592
返品調整引当金	982	1,012
その他の流動負債	3,508	4,565
固定負債	10,186	9,890
退職給付引当金	2,380	2,087
役員退職金引当金	1,884	1,766
連結調整勘定	894	1,342
その他の固定負債	5,026	4,693
少数株主持分	(17,772)	(16,878)
資本の部	(203,826)	(202,376)
資本金	30,079	30,079
資本剰余金	50,044	50,043
利益剰余金	137,922	130,979
土地再評価差額金	△ 2,377	△ 2,352
株式等評価差額金	5,291	1,265
為替換算調整勘定	△ 687	△ 556
自己株式	△ 16,447	△ 7,082
負債、少数株主持分及び資本合計	329,403	308,170

連結損益計算書

(百万円)

	当期 2005.3～ 2006.2	前期 2004.3～ 2005.2
営業収益		
売上高	283,110	271,273
営業費用		
売上原価	152,042	146,447
販売費及び一般管理費	106,360	100,620
営業利益	24,707	24,205
営業外収益	3,785	3,017
営業外費用	1,325	939
経常利益	27,167	26,283
特別利益	68	940
特別損失	1,369	2,915
税金等調整前当期純利益	25,866	24,308
法人税、住民税及び事業税	12,321	7,490
法人税等調整額	842	4,507
少数株主利益	1,612	2,054
当期純利益	11,091	10,256

連結剰余金計算書

(百万円)

	当期 2005.3～ 2006.2	前期 2004.3～ 2005.2
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	50,043	49,707
資本剰余金増加高	0	336
資本剰余金期末残高	50,044	50,043
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	130,979	124,575
利益剰余金増加高	11,116	10,256
利益剰余金減少高	4,173	3,852
利益剰余金期末残高	137,922	130,979

連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

	当期 2005.3～ 2006.2	前期 2004.3～ 2005.2
営業活動によるキャッシュ・フロー	26,758	15,992
投資活動によるキャッシュ・フロー	△37,210	△12,949
財務活動によるキャッシュ・フロー	△15,093	△9,336
現金及び現金同等物に係る換算差額	59	26
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	△25,485	△6,267
現金及び現金同等物の期首残高	81,543	87,811
現金及び現金同等物の期末残高	56,058	81,543

連結子会社

株式会社インパクト二十一

チャコット株式会社

オーク株式会社

ダナキャランジャパン株式会社

バスストップ株式会社

株式会社パーソナルオーダージャパン

アクロストラנסポート株式会社

株式会社オンワードクリエイティブセンター

株式会社オンワードライフデザインネットワーク

株式会社ブックレット

エクセル株式会社

株式会社オーアンドケー

株式会社オンワードマリン

株式会社オンワードビーチリゾート

プロジェクトスローンLTD. (海外)

フリードオブロンドンLTD. (海外)

オンワードビーチリゾートグアムINC. (海外)

(注) 平成17年5月16日付にて、プロジェクトスローンLTD. の株式を取得したため、同社を親会社とするジョゼフグループ20社を連結子会社といたしました。

Financial Statements
Non-Consolidated

個別財務諸表

個別貸借対照表

(百万円)

	当期 2006.2	前期 2005.2
資産の部	(257,814)	(244,936)
流動資産	80,318	95,894
うち現金及び預金	20,394	43,632
うち受取手形及び売掛金	18,789	17,862
うちたな卸資産	22,475	20,887
固定資産	177,495	149,042
有形固定資産	72,536	71,971
無形固定資産	2,493	1,934
投資その他の資産	102,466	75,135
資産合計	257,814	244,936
負債の部	(62,003)	(50,366)
流動負債	54,986	44,503
固定負債	7,017	5,863
資本の部	(195,810)	(194,570)
資本金	30,079	30,079
資本剰余金	51,552	51,552
利益剰余金	129,085	122,406
利益準備金	5,482	5,482
任意積立金	108,742	102,242
当期末処分利益	14,860	14,680
土地再評価差額金	△2,377	△2,352
株式等評価差額金	5,041	1,091
自己株式	△17,571	△8,207
負債及び資本合計	257,814	244,936

個別損益計算書

(百万円)

	当期 2005.3～ 2006.2	前期 2004.3～ 2005.2
営業収益		
売上高	203,539	197,230
営業費用		
売上原価	106,992	104,896
販売費及び一般管理費	77,744	74,348
営業利益	18,801	17,984
営業外収益	4,047	3,435
営業外費用	939	631
経常利益	21,910	20,788
特別利益	41	920
特別損失	2,113	3,060
税引前当期純利益	19,838	18,648
法人税、住民税及び事業税	9,062	4,847
法人税等調整額	21	3,152
当期純利益	10,754	10,648
前期繰越利益	4,081	4,052
土地再評価差額金取崩額	25	△20
当期末処分利益	14,860	14,680

利益処分

(百万円)

	当期 2006.2	前期 2005.2
当期末処分利益	14,860	14,680
買換資産圧縮積立金取崩額	0	0
合計	14,861	14,681
株主配当金	3,892	3,679
1株につき	24円	22円
普通配当	24円	20円
特別配当	—	2円
取締役賞与金	450	421
別途積立金	6,000	6,500
次期繰越利益	4,518	4,081

(注) 1. 買換資産圧縮積立金取崩額は租税特別措置法に基づくものです。
2. 株主配当金は、自己株式を除いて計算しています。

Corporate Profile

会社の概要

(平成 18年2月28日現在)

社名	株式会社 オンワード樺山 ONWARD KASHIYAMA CO., LTD
設立	昭和22年9月4日
資本金	300億79百万円
従業員数	1,656名
本社	東京都中央区日本橋3丁目10番5号
事業所	
東京店	東京都港区海岸3丁目14番11号
大阪支店	大阪府大阪市中央区本町4丁目3番6号
関東支店	東京都港区海岸3丁目11番6号
福岡支店	福岡県福岡市中央区大名2丁目6番43号
名古屋支店	愛知県名古屋市中村区名駅南4丁目11番31号
札幌支店	北海道札幌市中央区北一条西16丁目1番
仙台支店	宮城県仙台市青葉区上杉1丁目6番8号
広島支店	広島県広島市西区南観音3丁目12番10号
芝浦第一ビル	東京都港区海岸3丁目9番32号
芝浦第二ビル	東京都港区海岸3丁目11番6号
芝浦第三ビル	東京都港区海岸3丁目14番11号
芝浦第四ビル	東京都港区海岸3丁目14番21号
厚木物流センター	神奈川県厚木市愛甲片町1434番地
大阪支店・都島 オペレーションセンター	大阪府大阪市旭区高殿5丁目10番7号
オンワード総合研究所	神奈川県横浜市都筑区牛久保3丁目9番3号

取締役および監査役

(平成 18年5月25日現在)

取締役名誉会長	馬場 彰
代表取締役 会長執行役員	廣内 武
代表取締役 社長執行役員	上村 茂
代表取締役 専務執行役員	馬場和哉
取締役専務執行役員	草木 勝 大沼 勉
取締役常務執行役員	大野雅丈 山根 功 吉沢正明 堀江龍二 今井 博 小林忠良
取締役	本庄八郎
常勤監査役	山本昭登 大塚雄司
監査役	小川恵一 矢部丈太郎

執行役員

(平成 18年5月25日現在)

常務執行役員	中村純二 水野健太郎 清原雅文 前田 進 酒井 涉 玉井研一郎 馬場昭典 佐藤順彦
執行役員	浦上焜作 鎌苅 茂 松本秀雄 石田 博 萩平 勉 遠野栄治 原澤正好 田中 実 青山 仁 鈴木貴久 久道英雄 加賀谷和夫 野村 学 田中英信 小松光彦 吉里博一 三田寛暢 小林一仁 梅宮栄八郎 一瀬久幸 大沢道雄 加茂直紀 鈴木恒則 碓氷貴男 藤川徳恭

- (注) 1. 取締役 本庄八郎氏は、会社法第2条第15項に定める社外取締役です。
2. 監査役小川恵一、矢部丈太郎の両氏は、会社法第2条第16項に定める社外監査役です。

Stock Information

株式の状況

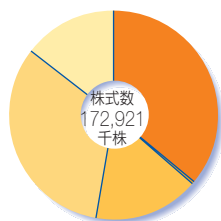
(平成18年2月28日現在)

会社が発行する株式の総数	400,000,000株
発行済株式の総数	172,921,669株
株主数	8,758名

(注) 発行済株式の総数には、自己株式10,726千株が含まれています。

所有者別株式分布状況

	千株	%
金融機関	62,335	36.0
証券会社	649	0.4
その他の法人	28,234	16.3
外国法人等	56,699	32.8
個人・その他	25,004	14.5



(注) 個人・その他には、自己株式が含まれています。

大株主 (上位10社)

株主名	当社への出資状況	
	持株数 千株	出資比率 %
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	12,280	7.1
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	10,470	6.0
財団法人 檜山奨学財団	8,710	5.0
日本生命保険相互会社	6,227	3.6
株式会社 伊勢丹	5,001	2.8
第一生命保険相互会社	4,200	2.4
ザチェースマンハッタンバンクエヌエイロンドン	3,412	1.9
カイスバンクパリ オーディナリーアカウント	3,222	1.8
モルガンスタンレー アンドカンパニー インク	3,013	1.7
株式会社 三井住友銀行	2,931	1.6

(注) 当社は自己株式10,726千株を保有しておりますが、上記の大株主から除いています。

株主メモ

決算期	毎年2月末日 (年1回)
定時株主総会	毎年5月中
配当金	株主総会の決議により、毎年2月末日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載された株主にお支払いいたします。
基準日	毎年2月末日 その他必要があるときはあらかじめ公告をして定めます。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同送付先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 お問合せ先 0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店
公告の方法	電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載 URL http://www.onward.co.jp/

単元未満株式の買増制度のご案内

単元未満株式をご所有の株主様は、その単元未満株式の数と併せて1単元になる数の株式を当社に対して買増請求することができます。

詳細につきましては、

株主名簿管理人

(証券保管振替制度ご利用の株主様はお取引の証券会社)

までお問い合わせください。



当冊子についてのお問い合わせ先

株式会社オンワード樫山

〒103-8239 東京都中央区日本橋3-10-5

TEL.03-3272-2312